

(別紙4(2))

事業所名 グループホームたんより

目標達成計画

作成日: 令和3年 5月 31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向け取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間
1	6	一部職員の独断で家族との合意形成と三要件の書面なく、身体拘束を行っていた事実が発覚し、管理体制の不備が明らかとなる。	組織としての管理体制を見直し、指示命令システムを職員全員で再確認し、意識改革を行う。	緊急身体拘束廃止委員会の開催と共に、職員としての責任・倫理観の勉強会を会社として行い、再発防止に努める。 3ヶ月
2	6	たんより身体拘束廃止委員会を行っていたにも関わらず、上記のような、正式な手順を踏まない身体拘束が行われ、複数の職員が関わっていたにもかかわらず防ぐことができなかった。	身体拘束ゼロ宣言に基づき、全ての職員が禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、再発防止に努める。	今までの勉強会では理解しえなかった部分において、細かく読み合わせをし、職員全員が理解できたか確認を行う。 2ヶ月
3	11	現場において、職員間の立場や声の大きさのバランスがとれておらず、チームシップとして偏りが生じている。	職員間に力や声の大きさの偏りが生じることなく、全職員が公平かつ平等に意見交換できる職場とする。	一人一人の職員の考え方をしっかりとし、他職員に引っ張られてしまうことがないよう、職員の自律研修を行う。 3ヶ月
4	26	介護計画においてアセスメントが十分にできておらず、個別性を尊重したケアプランが立案されていない現状がある。	職員本意ではなく日々の情報を活かし、入居者の個別性を最大限に反映したケアプランを立案し、ケアにつなげる。	一部職員でなく全職員がアセスメントに関わることができるよう、体制を変更し対応する。 1ヶ月
5	49	コロナ禍において、外出やドライブ等のレクリエーションが実施できていない。	人との接触を控えながら、コロナ禍でも可能な外出の機会を企画・実行する。	日々の勤務体制を見直し、レクリエーションがケアに導入できるようにする。コロナ禍となり職員にレクの重要性が薄れてきているため、入居者の喜びにつながる大切なケアの1つということの意識付けを行う。 1ヶ月

6	55	防災の視点において、たんより内各所の危険箇所状況の把握ができていない部分がある。	危険な個所の把握を具体的に行い、地震対策のストッパー等を取り付け対応する。	入居者の居室や共用部分、また職員使用箇所において速やかに地震対策を講じる。	3ヶ月
---	----	--	---------------------------------------	---------------------------------------	-----

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。